エスカレートするウクライナ戦争

―プーチン大統領が切った三つのカード―

防衛研究所 政策研究部長 兵頭慎治氏（寄稿）

ロシアのミサイル攻撃を受けて、迎撃するポーランドのミサイル。ウクライナ防空軍はツイッターでこの写真を掲げ「我が軍の最新鋭の西側の防空システムを持っていれば、このような攻撃を防ぐことができた」と訴えた

兵頭　慎治（ひょうどう・しんじ）防研政策研究部長
1968（昭和43）年生まれ。愛媛県出身。上智大ロシア語学科卒、同大学院国際関係論専攻博士前期課程修了（国際関係論修士）。専門はロシア地域研究（政治、外交、安全保障）。在ロシア日本大使館政務担当書記官兼領事官補佐、内閣官房副長官補（安全保障・危機管理）付内閣参事官補佐、防衛研究所地域研究部米欧ロシア研究室長、同地域研究部長などを経て、2020年から現職。内閣官房国家安全保障局（NSS）顧問、内閣官房副主任・主査をめぐる内外発信に関する有識者懇談会委員などを歴任。共著に『現代日本の地政学』（中央公論新社、17年8月）など著書、論文多数。

2月24日に始まったロシアによるウクライナ侵攻は、戦争終結への出口が見えないまま、新たな局面を迎えようとしている。プーチン露大統領の度重なる核使用示唆の発言を受けは、対応すべきなか、第3次世界大戦を回避する核使用効果を立ててはあるのか。本稿は、月刊誌『時事』よりウクライナ侵攻の衝撃、5月号掲載「田口の見るがいい」戦争の第1人者である防衛研究所の兵頭慎治政策研究部長が故新のウクライナ情勢について分析し、一部修正・加筆を加えました。

（筆人の見解であり、所属組織の見解を代表するものではありません）

戦争長期化　膨れ上がる犠牲者

ロシアによるウクライナ侵攻から7月以上が経過しましたが、戦争終結の出口は全く見えない。ウクライナ側は、ロシアの侵攻に対し、ゼレンスキー大統領の下、国家総動員体制を敷き、ロシア軍の侵攻を撃退しようとしている。

ロシアは、ウクライナ東部ドンバス地域の2州を中心に、ウクライナ全土に対する大規模な攻撃を行っている。ウクライナ軍は、ロシアの攻撃を受けて、ロシア軍の戦闘力を大きく削いでいる。

ロシア軍は、ウクライナ東部ドンバス地域の2州を中心に、ウクライナ全土に対する大規模な攻撃を行っている。ウクライナ軍は、ロシアの攻撃を受けて、ロシア軍の戦闘力を大きく削いでいる。

ロシアは